

バイオガソリン導入について

1 環境先進産業としてバイオエタノールの導入を推進

石油業界は、環境先進産業として、バイオエタノールの導入に積極的に取り組んでおります。京都議定書目標達成計画の策定にあたり経済産業省から要請のあった数量21万KLに全量応じるべく着実に準備を進めており、その第一歩として、2007年4月からバイオガソリンの試験販売を関東圏50カ所のSSで開始することにいたしました。

2 バイオエタノール利用における今後の課題（「質」と「量」）

バイオエタノールの利用にあたっては、質と量の面でまだ多くの課題が残されています。質の面では、直接混合の場合、水分混入によって発生する品質変化やクルマの安全性の問題、また光化学スモッグの増大も懸念されます。さらに、量の面でも、食糧との競合や生態系の破壊など、新たな問題も出てきております。従って、バイオエタノールの円滑な利用のためには、こうした質・量の課題を解決し、安定的な供給を確保していくことが求められております。

3 キーワードは「消費者優先」「製造物責任」「国産国消」

石油業界は、消費者の安全・安心・品質の確保を最優先し、製造物責任を果たすため、「直接混合方式」ではなく、欧州が対応している「バイオETBE方式」（バイオエタノールを製油所で加工し、質の問題をクリアする方式で、バイオエタノールの混合量は変わらない）での生産を決定いたしました。また、無資源国のわが国としては、地球温暖化防止だけでなく、エネルギー自給率向上も重要な課題と考えられるため、エタノールの調達については、海外からの輸入ではなく、あくまで「国産国消」を目指し、かつ食糧と競合しない草木植物のセルロースを原料とした低コストエタノールの生産技術の開発を急ぐべきと考えます。

